

2021(令和3)年度 入学試験問題

東大・医進クラス 2月1日 AM

国語

注意

- (1) 指示があるまで表紙を開かないこと。
- (2) 問題および解答用紙の両方に受験番号・座席番号を記入すること。
- (3) 声を出して読まないこと。
- (4) 解答は全て解答用紙の所定の欄らんに記入すること。

受験番号

座席番号

※問いに字数指定がある場合は、句読点なども一字として数えます。

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「波多野さんって、学校でもこうなの？」

あるとき、由里が若林を冷たくあしらっているところに、<sup>①</sup>彼女が話しかけてきたのだ。

「うーん。オレ以外には、優しいと思う。特に女子には優しいよな」

若林がそう答えるのを見て、由里はきっぱりと言った。

「そう。特に女子にはね。うまくやるために、優しくするようにしてるの」  
すると空美が、パッと顔を明るくして言った。

「わかるー。学校の友達とはうまくやれないといけないもんね。特に女子とはね」

そんな反応が返ってくるとは予想してなくて、由里は呆然と彼女を見つめた。

「私も話合わせるために、その俳優私も好きとか、けっこうウソ言っちゃうんだよね」

由里は驚きで声にならず、うなずくのが精いっぱいだった。

「でも、そういうの必要なウソだと思ってるから、まあいいかなあつて。それがきっかけでいじめられたりするのバカバカしいし」  
「だよねー」

由里は、彼女の言葉に大きくうなずいた。

そう、なにもいつもいつも本音じゃなくていいのだ。

うまくやるために「I」もある。

使い分けていいのだ。

由里はそんな彼女の言葉に、救われた気持ちだった。

すると、そんなふたりのやりとりを聞いていた若林が、顔をしかめた。

「怖いねー、女子の本音だねー」

そう言って肩をすくめて離れていく後ろ姿を見て、由里と空美は顔を見合わせて笑った。  
その日から、由里にとって空美は大事な友達になった。

志望校も偶然いつしよで、高校でもこんな調子で過ごせたらと、期待に胸を膨らませている。

そうして、松葉高校の入試本番を数日後に迎えようとしている今、由里はあらためて思うのだ。

この三年間、ずっと、受験のことばかり考えてきたのは、どうしてだろう、と。

どうして自分は、中学の入学式も迎えない前から、松葉高校合格を目標に塾に行きたすほど、高校受験のことはかりを考えて過ごしてきたのだろう、と。

あのころ……そう、たぶん六年生の後半くらいのことだ。

中学受験をしない子たちは、自分たちが行くことになる隣の中学のうわさ話ばかりしていた。

そして、その話は、暗いものばかりだった。

部活で先輩にしがかれるとか、不登校になる生徒が多いとか、いじめを苦に自殺しかけた子がいるとか……。

そんな話ばかり聞かされて、由里は心配になったり、怖くなったりで、これから迎える中学校生活に不安しか持てなかった。期待で胸を膨らますことが、まるでできなくなってしまった。

それで、目標を憧れの松葉高校合格と定めて、中学の三年間をその助走期間にしようとしたのだ。

中学生活を飛び越えたその先にある、高校生活に期待することにしたのだ。

由里がこの塾に入ったとき、最初に書かされたアンケートで、こんな質問があった。

Q4 あなたにとって、勉強とはなんのためにするものですか？

そしてこのとき、由里はこう回答した。

A 受験を乗り越えるため。

由里は、中学に入学してからずっと、受験を乗り越えることしか考えてこなかった。

勉強とは、そのためだけにするものだった。

だから部活も友達も、中学生生活を田満に『乗り越える』という基準でしか選んでこなかった。

部活は、やってみたかったバスケットボール部ではなく、憧れの白石先輩がいるという理由で陸上部にしたし、クラスではつねに自分を抑えて、いじめに関係なさそうな地味なグループにいるようにして、そのほかの時間は勉強に費やした。

そのおかげか、由里の中学生生活は、先輩にしごかれることも、いじめられることもなかった。

そして無事、松葉高校に合格すれば、由里の中学生生活はある意味、百点満点だったと言えるだろう。

だけどこの塾に入ったとき、<sup>②</sup>由里の中学生生活は、もう限界を迎えようとしていた。

受験を乗り越えるための仲間が、欲しい。

不安も不満も心のままにぶちまけられる、誰かが欲しい。

もう、ひとりじゃがんばれない。

だから、受験まであと四か月しかないという三年の秋になって、この塾に入ったのだ。

本音を言えば嫌われるかもしれない。

学校でそんなリスクはおかせないから、同じ中学の子がいないはずのこの塾で、仲間を探せないかと期待したのだ。

そんな背水の陣で臨んだ新しい塾で、由里はラッキーにも佐竹空美という友達を得た。

由里は、本音を話せる友達がいるというのは、こんなにも気分がいいものなのかと、今まで感じたことのない喜びを味わっている。

だからこそ、思うのだ。

もし学校でも、素の自分でしたらどうだっただろう、と。

案外、それでもうまくやれたんじゃないかな、と。

誰かとぶつかって、学校に行きたくないと思うこともあったかもしれない。

イヤな思いもたくさんしたかもしれない。

だけど、佐竹空美みたいに、本音を言える友達が、ひとりくらいは作れたかもしれないと思うのだ。

誰にも嫌われないってことは、誰にも好かれなくていいことだ。

この三年間、由里は誰かにうんと嫌われることがなかったけれど、うんと好かれることもなかった。

うんとかなしいことも、うんとつらいこともなかったけれど、うんと楽しいことも、うんと嬉しいこともなかった。

もし、やってみてみたかったバスケットボール部に入っていたら、きびしいコーチや先輩にしごかれて、レギュラー争いでイヤな思いをし

り、苦しい練習にもうバスケなんて嫌いだと思うこともあったかもしれない。

だけど、試合に勝つ喜びを味わえたかもしれない。

楽しい！ 私、今、生きてる！ っていう充実感を、味わえたかもしれない。

そんな、青春を送れたかもしれない、と思うのだ。

③ だから今度の三年間は……と今、思うのだ。

もう《受験を乗り越えるため》だけの勉強はやめよう、と。

憧れの松葉高校に入学したところで、本当に期待どおりの生活が待っているかはわからない。

それだけは、入ってみなければわからない。

ただどもし失望するようなことがあっても、今度は『次の大学生活に期待して勉強に打ちこむ』なんてことだけはしないようにしたいと思うのだ。

もう、未来に逃げない。

なにかに本気で取りくんんだり、誰かと本音でつきあつて、泣いたり、笑ったり、怒ったり、喜んだりしながら、自分の進むべき道を見つける。

そんな三年間にしたいと思うのだ。

だから今度、なんのために勉強するのときかかれたら、由里はこう答えたいと思っている。

A どこにも逃げない強い自分を作るため。

今度は、受験のための《勉強》とは違う《勉強》もちゃんとする。

たとえば試合に勝つための部活に入ってみるとか、夏休みに短期留学してみるとか、自分には向いてなさそうなアルバイトをあえてしてみるとか……。

いろんな経験を重ねて、自分を強くしたい。どこにも逃げない自分を作りたい。自分を前に進めるために、いろんなことを学びたい。

それがきつと、これからの人生で戦うための《武器》④になると思うから。

「あー、女子ってほんと怖いよね。特に、波多野は怖い。オレ、第一志望が男子校で良かったわ」

そんな由里のそばで、若林がしつこくふざけてみせる。

「とか言つて、本当に怖いならもうちょっと由里から離れたら？ 若林くんの席向こうでしょ？」

空美がおかしそうに笑いながら言うのと、若林がおどけて言った。

「そうなんだけど、なんか、引き寄せられちゃうんだよね。なんでかな？」

「自分でわかつてるでしょ？」

空美があきれ顔で言うと、若林は素直すなおにうなずいて言った。

「うん、わかっている。なんか、こういうズバツと言ってくるところがいいんだよね」

由里はそう言って笑う若林を、前はなんとも思わなかったというより、思わないようにしてきた。同じ部活だからといって、なにかと話しかけてくる若林は、ずっとウザいだけだった。

へたに相手にして、仲がいいと誤解されたら困るから、とにかく冷たくあしらうようにしてきた。だけでもう、やめよう。

由里は、若林を見て言った。

「私も、あんたのそういう素直な性格、けっこう好きだよ」

思わぬ言葉に、若林が顔を真っ赤にしてかたまる。

そんな若林を見て、由里と空美は顔を見合わせて笑った。

これからはもう、男子には嫌きらわれるぐらいで、ちょうどいいなんて思わない。

素直すなおな気持ちを、ちゃんとぶつける。

たとえば、もし若林と仲良くなるようなことになったら、意外にもてるから、敵を作ることになるかもしれない。

だけど、もう、怖こわがらない。

⑤ これからはちゃんと、逃にげずに向きあいたい。

⑤ 「覚悟かくごしとけよ、若林」

由里は、心の中でこっさりつぶやくと、そのまま参考書まどに戻もどった。

すがすがしい気持ちで、次の問題に取りくみはじめた。

問一 〜〜線A〜Cの本文中の意味として最も適切なものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

A 顔をしかめた。

ア あきれたような表情を浮かべた。

イ 心配そうな表情を浮かべた。

ウ 冷やかすような表情を浮かべた。

エ 不愉快ふゆかいそうな表情を浮かべた。

B 素の

ア ありのままの

イ うらおもてのない

ウ 地味な

エ 無表情な

C おどけて

ア 真剣しんけんに

イ つられて

ウ ふざけて

エ おどろいて

問二 〜〜線①「彼女」とありますが、誰のことですか。本文中から抜き出して答えなさい。

問三

I に入る語を本文中から探し、五字で抜き出して答えなさい。

問四 — 線② 「由里の中学生生活は、もう限界を迎えようとしていた。」とありますが、由里がそのように思ったのはどうしてですか。最も適切なものを次のア～エから選び記号で答えなさい。

- ア 目標を松葉高校での生活と決めるときから、中学校生活に意味を見出せなくなってしまったから。
- イ 中学校での生活が理想とかけ離れていたことに気づき、続けていく意味を見失ってしまったから。
- ウ 不安や不満を誰にも打ち明けず一人受験を乗り越えていく自信が持てなくなっていたから。
- エ 三年間受験を乗り越えるために勉強してきたため、友人関係を全く作れていないことに気づいたから。

問五 — 線③ 「だから今度の三年間は……」とありますが、「……」にはどのような内容が含まれていると考えられますか。「したいこと」と「したくないこと」に分けて説明しなさい。

問六 — 線④ 「《武器》になる」とありますが、この表現を説明したものとして最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 自分を強くし人生で勝ち残っていく決意の強調。
- イ 自分にとって有利に働くものであることを示す隠喩。いんゆ
- ウ 知識や経験といった人間でないものをたとえる擬人法。ぎじんぼう
- エ 人生を戦っていくために必要な経験であることを示す直喩。ちよくゆ



問七 — 線⑤「覚悟しとけよ、若林」とありますが、ここから読み取れる由里の気持ちを説明したものとして最も適切なものを次のア〜

エから選び、記号で答えなさい。

- ア 若林と仲がいいと誤解されたら困るので、いままで以上に若林と親しげに話すことをためらう気持ち。
- イ 若林への好意を伝えることで空美を敵に回していく可能性があるが、それを恐れず向き合おうという気持ち。
- ウ 何かと話しかけてくる若林だが、受験も近くなったので今までのように無駄話に時間をさけないとあせる気持ち。
- エ まわりの反応を気にしたり遠慮えんりよしたりすることなく、自分の正直な気持ちを若林にぶつけていこうという気持ち。

【二】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

さて、アリストテレスの研究でなによりも興味深いのは、人間もまた動物の一種として位置づけられていることである。アリやハチのように社会的生活を営む動物である。ただ、多くの足ではなく、二本の足で歩き、ことばを使う動物である。生物学的研究も踏まえて、彼らは、人間を「ポリスの動物」であると考えた。人間は、アリやハチのように社会的生活を営む動物だが、人間の社会性は「ロゴス」によって支えられる。「ロゴス」とは「ことば」であり、「コミュニケーション」であり、ことばで思考する「判断力・分別・理性」である。

天文学や生物学と並び、社会的生活を営む存在である人間の研究である倫理学、政治学、さらに、詩学や弁論術といった言語についての研究など、いまでいう理系と文系の学問の創始者は、同時に、理系と文系をつなぐ学問の原理の研究を第一哲学とする哲学者でもあった。

わたしの関心は、自然に対する研究が生み出した近代の科学技術が、どうして人間の行為によって自然の破壊をももたらすのかということに向かっていたから、アリストテレスの思考のなかで自然に対する研究と人間社会に対する研究とがどのようにつながっているかを考察することをテーマに研究を進めた。

わたしが学んだもつとも重要な思想の一つは、人間には二種類の知的な能力が備わっているということである。それは、自然の必然的な法則性を認識する能力、すなわち真理を認識する能力と、人間が自らの行為を選択することのできる能力、すなわち善をめざし、よりよい行為を選択することを可能にする能力の二つである。

④人間が自らの行為を選択することのできる能力、「フロネーシス」を、わたしは「思慮深さ」と訳した。思慮深い人は、自分の目の前にある選択肢を「思慮深く」選択することができる。思慮深く選択できるということは、選択することによって実現できることを積み上げ、目標とする「願望の対象」を達成することができるということである。

行為を選択できる存在であり、その選択を行う能力をもつ存在こそが人間であるということの意味は、人間のふるまいは、自然の必然的な法則によって決まっているのではなく、複数の選択肢からみずからの意思にもとづいて一つを選択できるということを意味している。このことは、選択の自由をもっているということである。人間には自由があるということ、そのことをアリストテレスは、人間は選択する存在であり、思慮深さをもつ存在であると表現したのである。

人間の思考能力は、自然の法則を捉える部分と自由な選択の意思をもつ部分の両方からなっている。I、この二つは、人間が自己の存在の可能性を開花させるための、もつとも重要な能力である。

アリストテレスは、人間がその能力を最大限に実現させた状態をすべての人間が願望の対象とする「最高善」と考えた。しかも、多くの人が最高善を「幸福」と考えているとしている。人間にとつてもつともすぐれた能力は、自然の法則を認識することのできる能力であるが、この能力を発揮できる幸福な状態を実現するための選択を支えるのが思慮深さであった。

さて、人間が自然の必然的な法則を認識する能力をもつだけでなく、自然を利用したり、支配したり、II、破壊したりする「自然に対する行為」を選択することのできる存在であるならば、自然に対する行為の選択は、人間がもっている「思慮深さ」にかかっていることになる。人間が行う行為のなかには、自然に対する思慮深い行為もあるし、自然に対する思慮を欠いた行為も存在する。わたしは、人間にとって大切なことは、その選択であり、選択を支える思慮深さであるということを学び、この「選択する人間」を自分の哲学の根幹にすえようと考えた。

思慮深さがあることと、迷い、また後悔こうかいすることとは切っても切れない関係にある。だれもが与えられた人生のなかで、迷うことなく選択することなどありえない。ただ、思慮深い人は、複数のなかから賢かしこくよりよい選択肢を見抜くのである。

人間は、選択すべき対象を知っていて選択するのか、という問いは、ソクラテスのパラドクスといわれる論争を引き起こした。人間は悪いことだと知っていて選択することがあるだろうか。この問いにソクラテスは、人間が誤った選択をするのは無知だからだと主張した。人間はよいことだと知っていれば、そのよいことを行い、悪いことだと知っていれば、そのようなことはしないものだ。III、そのよ

うなことをするのは無知だからだ、というのである。ソクラテスの考えでは、よい行為をするようになるためには、善とは何か、悪とは何かを知らなければならない。<sup>④</sup>それを教えるのが教育だというのである。

アリストテレスは、ソクラテスに反論して、人間は悪いと知っていても、悪いことを選択することがあると主張した。悪と知りながら悪を行うのは、知を負かしてしまうほどの欲望があるからだというのである。IVが人間の判断を誤らせるといふより、人間

にはVというものがあり、だからこそ、後悔したり反省したりする。後悔することや反省することが人間が成長するための契機けいきになるといふのである。

読者のみなさんはどう思うだろうか。わたしたち人類の人生は、惑星わくせい上で営まれる迷う人生である。いわば<sup>⑤</sup>「惑星的人生」こそがわたしたちの人生なのである。その迷いの道筋の上に、地球の将来がかかっている。地球と人間の将来に向けて、どのような選択を行うかがわたしたちに託たくされている。どのような選択肢があるのかを見抜いて、しつかり迷い考えることが大切である。

（桑子敏雄『何のための「教養」か』による）

問一 I III に入る語として最も適切なものを次のア～オから選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度以上用いてはいけません。

ア あるいは      イ しかし      ウ しかも      エ なぜなら      オ むしろ

問二 — 線①「ボリス的動物」とありますが、これはどのようなものですか。最も適切なものを次のア～エから選び記号で答えなさい。

ア 社会的生活を営む動物  
イ 二本の足で歩き、ことばを使う動物  
ウ ロゴスによって支えられている動物  
エ ことばで思考し判断する動物

問三 — 線②「人間には二種類の知的な能力が備わっている」とありますが、その二つの能力について、それぞれ十五字以上二十字以内で説明しなさい。

問四 — 線③「人間が自らの行為を選択することのできる能力、「フロネーシス」を、わたしは「思慮深さ」と訳した。」とありますが、筆者はどうしてこのように訳したのですか。最も適切なものを次のア～エから選び記号で答えなさい。

ア 思慮深い人にしか自分の目の前に起こった出来事を正しく判断し認識することができないから。  
イ 思慮深く考えて選択しさえすれば、人間が自己の存在の可能性を開花させることができるから。  
ウ 人間は思慮深く選択することではじめて理想に向けて実現できることを積み上げられるから。  
エ 人間は思慮深さを持たないと自分の願望のままに行動してしまい、自然破壊を引き起こしてしまうから。

問五 — 線④ 「それを教えるのが教育だ」とありますが、「それ」とは何か答えなさい。

問六 

IV
----

 ・ 

V
---

 に入る語の組み合わせとして最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア IV 無知 V 意志の弱さ
- イ IV 悪 V 自然の法則
- ウ IV 欲望 V 行為の選択
- エ IV 選択 V 自分の哲学

問七 — 線⑤ 「惑星的人生」こそがわたしたちの人生なのである。」とありますが、本文全体を通じて筆者は人生についてどのように考えていますか。最も適切なものを次のア～エから選び記号で答えなさい。

- ア 地球という惑星を守ることを第一に考え、自然に対する配慮を欠かさず賢くより良い選択肢を見抜いていくものである。
- イ 地球上で営まれる生活のなかでさまざまな選択肢に迷いながら、地球や人間の将来を考えてよりよい選択を試みるものである。
- ウ 地球という惑星が太陽という恒星の周りをゆらぐことなく公転するように、後悔や反省をすることなく動いていくものである。
- エ 地球上で生活していくうえで出会う選択肢に対し、なるべく迷わずに生きていけるように正しい判断力を身につけていくものである。

問八 次のア～オについて、本文の内容と合うものにはA、合わないものにはBを書きなさい。

- ア アリストテレスは人間の社会性はことばで考えることやコミュニケーションによつて支えられると考えた。
- イ 筆者は近代の科学技術が自然破壊をもたらすのは思慮深さが足りないからではないかと考えている。
- ウ アリストテレスの考える「最高善」は人間が自らの能力を最大限に実現させたときの状態である。
- エ 筆者は人間が悪を行う理由について選択肢を迷うことなく選ぶことなどあり得ないからだと考えた。
- オ アリストテレスは人間は悪いことだと知っていて選択することはないと考えたが、ソクラテスはそれを否定した。

【三】 次の問いに答えなさい。

問一 次の文の「ない」と同じ使い方をしているものをア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

最後まであきらめないことが大事だ。

ア 雨が続いて作物の収穫量が少ない。

イ 目には見えない小さな世界を顕微鏡でのぞく。

ウ 調べたいことについて書かれた本がまったくない。

エ きたない水をきれいにする活動に従事した。

オ 残念ながら、遊んでいるひまはない。

問二 次の文の主語、述語を一文節で書き抜いて答えなさい。

庭のプランターのトマトの実がおいしそうに赤く色づいた。

問三 次の□にア～オのいずれかを入れてことわざ・慣用句を完成させるとき、一度も使わないものを一つ選び、記号で答えなさい。

鳶とんびが□を生む

蛇あぶ□取らず

自分の頭の□を追え

□取りまなこ

ア 蜂はち イ 鷹たか ウ 蠅はえ エ 蚤のみ オ 鷲わし

問四 次の□にア～コのいずれかを入れて類義語を完成させるとき、①～④に入るものをそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

釈明 ①  
②  
方法 ③  
④

語群

ア 耳 イ 手 ウ 解 エ 段 オ 応  
カ 弁 キ 論 ク 目 ケ 会 コ 奮

問五 次のア～エの文の順序を整えて意味の続きがはつきりした文章にするには、どのような順序にすればよいですか。はじめから順に記号で答えなさい。

ア 自転車は移動におけるエネルギー効率すくに優れ、排気ガスはいきも出さないクリーンな移動手段として広く普及ふせうしています。  
イ しかし前輪が巨大きよだいになるにつれて足が地につかないほどになり、重心も高くなり危険性が増したため、現在の形へと変わっていきま  
す。  
ウ それが前輪にペダルが付くことで漕こいで進む方式になり、スピードを出すために前輪は次第しだいに大きくなっていきました。  
エ 一九世紀の初頭にドイツで誕生した二輪自転車ですが、はじめはペダルやチェーンもなく、足で地を蹴けって進む方式でした。

【四】 次の①～⑩について、——線の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

- ① 社長専属の運転手。
- ② 悪いことの起こる前兆だ。
- ③ 著名な俳優の家を訪問する。
- ④ 縮尺の大きい地図を見る。
- ⑤ あどけない幼子が笑う。
- ⑥ モツカンが出土した。
- ⑦ 日本最大のボウエキ港だ。
- ⑧ 外国にボウメイする。
- ⑨ 街灯が暗闇をテらす。
- ⑩ コウセツのため登頂は延期された。





# 解答用紙

2021  
(令和3)年度

国語  
東大・医進クラス  
2月1日 AM

問一 A 2  
B 2  
C 2  
ウ 2

問二 (佐竹) 空美 3  
問三 必要なウソ 3

問四 3  
ウ 3  
(別解) どこにも逃げない強い自分を作りたいということ。

問五  
したくないこと 6  
したいこと 6  
何かの本気で取り組んだり本音で付き合ったりしながら、自分の進むべき道を見つけたということ。  
受験を乗り越えたいための勉強。  
次の大学生活に期待して勉強に打ち込むこと。

問六 4  
イ 4  
問七 4  
エ 4  
問二 3  
ア 3

問一 I 2  
ウ 2  
II ア 2  
III エ 2  
問二 ア 3

問三	人間が自らの行為を選択できる能力	自然の必然的な法則性を認識する能力
20	15	15

問四 3  
ウ 3  
問五 4  
善とは何か、悪とは何か(を知ること)。

問六 3  
ア 3  
問七 3  
イ 3  
問八 A 1  
イ 1  
A 1  
ウ 1  
A 1  
エ 1  
B 1  
オ 1  
B 1

問一 4  
イ 4  
問二 主語 2  
実が  
述語 2  
色づいた  
問三 4  
オ 4  
問四 1  
カ 1  
② 1  
ウ 1  
③ 1  
イ 1  
④ 1  
エ 1  
問五 4  
ア 1  
↓  
エ 1  
↓  
ウ 1  
↓  
イ 1

⑥ 木簡  
⑦ 貿易  
⑧ 亡命  
⑨ 照らす  
⑩ 降雪  
① せんぞく  
② ぜんちょう  
③ ちよめい  
④ しゅくしゃく  
⑤ おさなご

受験番号	
座席番号	
得点	